

東京 IPO 特別コラム

2021年4月16日 Vol.177

研究開発型モノづくり企業が人気化

このところの株式市場は大きな波乱もなく徐々に下値を固めながら次のステージに進む兆しを見せています。ただ直近3回の3万円台乗せ後の日経平均がいずれもその後押し戻された状況下で大阪を中心にコロナ感染拡大の報道もあり、一旦は調整するのではないかと懸念されておられる投資家もお見えになるのかも知れません。昨年末に比べて3月末の日経平均は6.3%上昇する一方で、TOPIXは8.3%上昇しており、多くの投資家の運用成果は1-3月期においては着実に向上しているものと推察されます。このため利益確定売りにつながっており、4月前半は一気に上値を追うことなく下値固めの展開が見られたとポジティブに捉えておきたいと思えます。一方で、この間のマザーズ指数は0.6%の上昇に留まっており、マザーズIPO銘柄などには物足らなさが感じられる展開になっているものと推察されます。

こうした中、2021年2-4月のIPO市場には2月5日のQDレーザ(6613・公開価格340円⇒初値797円)から始まって4月15日のサイバートラスト(4498・公開価格1660円)まで現在、27銘柄が上場。それぞれに初値は高くてもその後は調整含みの展開で初値や公開価格に接近する動きも見出せます。コロナ禍での業績の先行き不透明感が払拭されるまではIPO銘柄に対して投資家は慎重にならざるを得ないかと思いますが、これに対してこのところ人気化しているのは半導体レーザや医療機器開発の注力するQDレーザから始まった研究開発型モノづくりの銘柄ではないでしょうか。3月24日には半導体検査装置の開発・製造、LSI設計及びIPコアの開発、カメラモジュール及び画像処理システムの開発・製造を行うシキノハイテック(6614・公開価格390円⇒初値1221円)が上場し上場後人気化。4月5日に上場した光学分野の酸化物単結晶、光部品、レーザ光源、計測装置の開発・製造販売を行うオキサイド(6521・公開価格2800円⇒初値6540円)も上場後人気化しており、世界の投資家が注目する可能性もある日本のモノづくり企業が注目を集めていると考えられます。それぞれに収益水準はまだ低いものの取り組んでいるビジネス、技術背景などを十分に吟味しながら銘柄選定を凶った結果の評価の高まりだろうと推察されます。これまではどちらかと言うとIT、AI関連銘柄に人気は偏っていましたが日本企業特有の半導体や光関連部品、レーザといったモノ作り企業への評価は今後のIPO人気の潮流になる可能性が感じられます。

来週22日には一気に3銘柄(ビジョナル(4194)、ステラファーマ(4888)、ネオマーケティング(4196))が上場の予定。この中では新しいがん治療分野であるBNCT(ホウ素中性子捕捉療法)に使用されるホウ素医薬品の開発・製造販売を行うステラファーマに注目。コロナ禍への対応よりも本来は人類の病気で最も手ごわいがん治療薬の方に長期的な価値は高いと考えられます。特に今回は中性子加速器との組み合わせで効果を発揮する点で興味深い。(東京IPOコラムニスト 松尾範久)